

# 「JRS・JCR放射線科医の動向に関するアンケート」 報告 その2 集計結果

岩手医科大学 放射線科 曾根美雪

日本医学放射線学会 理事長 大友 邦  
日本放射線科専門医会・医会 理事長 水沼仁孝  
同 前理事長 中島康雄  
東京大学 医療経営政策学講座 康永秀生

## はじめに

日本医学放射線学会(JRS)と日本放射線科専門医会・医会(JCR)の共同アンケート調査は、放射線科医の仕事への満足度を検討することを主な目的として、2008年4月から7月にかけて行われた。

調査の目的と方法、実施に伴う問題点については、JCRニュース168号に掲載した。今号では、全体集計の主な結果について報告する。今後、満足度に影響を及ぼす因子の解析を行うとともに、放射線腫瘍、画像診断、核医学、IVRの各専門分野と、女性医師、専門医以前の放射線科医の特徴と問題点を明らかにするため、それぞれのワーキング・グループを組織した。精緻化した解析作業を進め、その結果を順次報告する予定である。なお、質問票の全項目の集計結果は、JCRホームページにて公開すべく準備中である。

## 集計結果

### 1. 回答者の特徴

アンケートを郵送した7491名のうち、回答が得られたのは4107名(55%)で、このうち有効な回答は3986名(53%)であった。性別は、男性3096名(77.7%)、女性844名(21.2%)であった。性別の回答率は、男性52.1%、女性54.6%で、差はみられなかった。年齢の分布を図1に示す。20代が10.4%、30代が28.9%、40代が32.6%、50代が21.8%、60代以上が6.4%であった。年齢別の回答率をみると、30～60代では約50%であったが、20代は80%と高かった(表1)。放射線科専門医資格は、3097名(77.7%)が取得しており、未取得は882名(22.1%)であった。専門分野は、画像診断が54%と最も多かった(図2)。

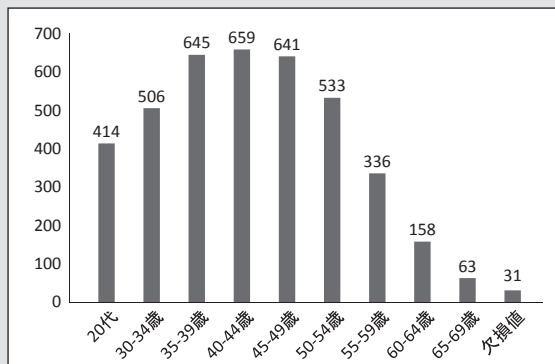


図1. 年齢分布

表1. 年代別の回答率

	送付数	有効回答数	パーセント
20代	512	414	80.9
30～34歳	1011	506	50.0
35～39歳	1192	645	54.1
40～44歳	1176	659	56.0
45～49歳	1148	641	55.8
50～54歳	979	533	54.4
55～59歳	649	336	51.8
60～64歳	327	158	48.3
65～69歳	162	63	38.9
70歳以上	328	0	0.0
欠損値	7	31	
合計	7491	3986	

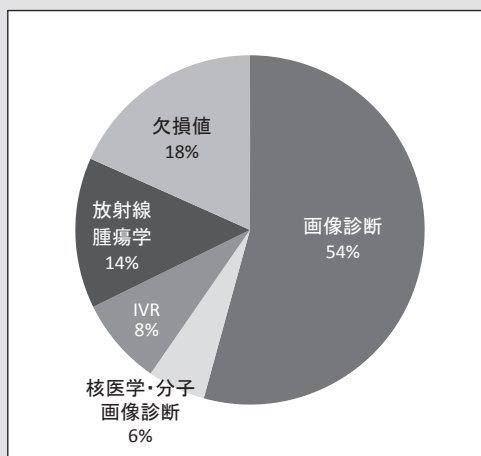


図2. 専門分野

## 2. 勤務する病院の特徴

勤務先の設立母体、病床数、所在地の地方および人口規模を表2～5に示した。設立母体は多様であるが、病床数で見ると500床以上の規模の病院に回答者の42.3%が勤務していた。地方別では、数のみの比較では関東、近畿、九州・沖縄の順に多く、この3地方で63%を占めていた。また、人口では中核市以上規模の所在地が多く、70.9%であった。

表2. 主な勤務先の設立母体

	度数	パーセント
国立大学	670	16.8
公立大学	143	3.6
私立大学	488	12.2
がんセンター	136	3.4
その他のセンター病院	67	1.7
国立病院	142	3.5
自治体立病院	493	12.4
民間病院	1247	31.3
放射線科を主とする診療所	79	2.0
一般診療所	274	6.9
画像診断センター	104	2.6
その他	122	3.1
欠損値	21	0.5
合計	3986	100

表3. 主な勤務先の病床数

	度数	パーセント
200以下	812	20.4
200～300	419	10.5
300～400	466	11.7
400～500	378	9.5
500以上	1688	42.3
欠損値	223	5.6
合計	3986	100

表4. 主な勤務先の所在地方

	度数	パーセント
北海道	138	3.5
東北	208	5.2
関東	1110	27.8
北信越	227	5.7
東海	334	8.4
近畿	783	19.6
中国	317	8.0
四国	167	4.2
九州・沖縄	637	16.0
欠損値	65	1.6
合計	3986	100

表5. 主な勤務先所在地の人口規模

	度数	パーセント
東京23区	450	11.3
政令指定都市（人口100万以上）	1088	27.3
中核市（人口30～100万）	1287	32.3
その他の市	953	23.9
郡、町、または村	133	3.3
欠損値	75	1.9
合計	3986	100

### 3. 勤務形態

回答者の78.1%がフルタイム、11.9%がパートタイムの放射線科医として勤務していた（表6）。“フルタイム以外”の理由として、放射線科以外の科での勤務が最も多く、子育て中、リタイアがそれに続いた（図3）。主な勤務先だけではなく、複数の施設に放射線科として関わっている回答者は、66.5%であった（表7）。

表6. 勤務形態

	度数	パーセント
フルタイムの放射線科医	3114	78.1
パートタイムの放射線科医	473	11.9
一時的に放射線科医としての仕事を中断	170	4.3
永続的に放射線科医としての仕事を中断	144	3.6
欠損値	85	2.1
合計	3986	100

表7. 主な勤務先以外に関わっている施設の数

	度数	パーセント
0箇所	1332	33.4
1箇所	888	22.3
2箇所	710	17.8
3箇所	488	12.2
4箇所	219	5.5
5箇所以上	276	6.9
欠損値	73	1.8
合計	3986	100

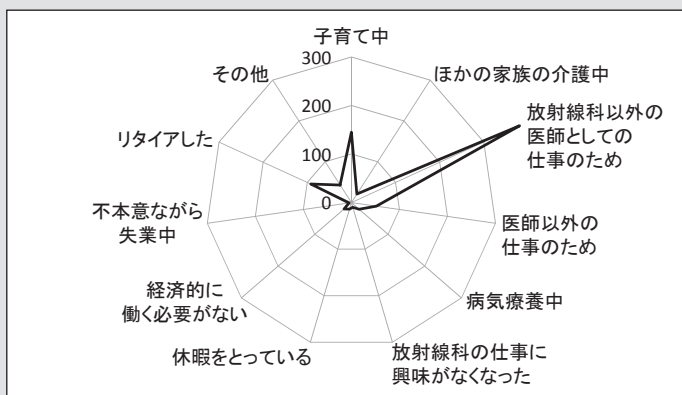


図3. フルタイムで勤務以外の回答の理由

#### 4. 労働量と出張、休暇

週あたりの労働時間は、40時間未満が16.8%、40～64時間が62.6%、64時間以上が14.2%であった(表8)。月あたりの当直回数は3回以下が81%で大半を占め、このうち0回が52.1%であった(表9)。オンコール回数は、3回以下が64.3%であったが、7回以上という回答が10.7%に認められた(表10)。過去1年間の専門分野の教育や学会参加のための出張日数および有給休暇の日数には、ばらつきがみられた(表11, 12)。出張、休暇中の仕事のカバーは、64.4%で同施設の放射線科医が行っていたが、まったくカバーがないという回答が24.2%認められた(表13)。

表8. 週あたりの労働時間

	度数	パーセント
16時間未満	348	8.7
～40時間	323	8.1
～48時間	872	21.9
～56時間	924	23.2
～64時間	697	17.5
～72時間	384	9.6
～80時間	183	4.6
欠損値	255	6.4
合計	3986	100

表9. 月あたりの当直回数

	度数	パーセント
0回	2075	52.1
1～3回	1152	28.9
4～6回	331	8.3
7～9回	69	1.7
10回以上	43	1.1
欠損値	316	7.9
合計	3986	100

表10. 月あたりのオンコール待機回数

	度数	パーセント
0回	2217	55.6
1～3回	345	8.7
4～6回	146	3.7
7～9回	118	3.0
10回以上	306	7.7
欠損値	854	21.4
合計	3986	100

表11. 過去1年間の教育および学会参加による出張

	度数	パーセント
0日	500	12.5
1～3日	1015	25.5
4～6日	918	23.0
7～9日	518	13.0
10日以上	838	21.0
欠損値	197	4.9
合計	3986	100

表12. 過去1年間の有給休暇

	度数	パーセント
0日	935	23.5
1～3日	757	19.0
4～6日	967	24.3
7～9日	621	15.6
10日以上	491	12.3
欠損値	215	5.4
合計	3986	100

表13. 出張・休暇中の仕事のカバー

	度数	パーセント
だれもカバーしない	963	24.2
同施設の放射線科医がカバー	1680	42.1
同施設の放射線科医が一部カバー	888	22.3
他施設の放射線科医がカバー	34	0.9
他施設の放射線科医が一部カバー	193	4.8
放射線科医のカバーはなく、同施設の他科の医師がカバー	164	4.1
欠損値	64	1.6
合計	3986	100

## 5. 収入

放射線科医としての収入は、800万円以下が21.9%，800～1600万円が53.3%，1600万超が21.3%であった(図4)。

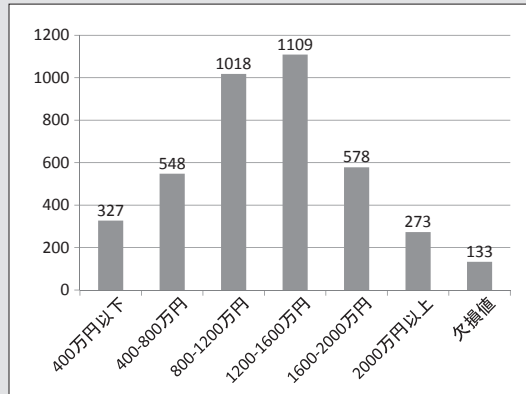


図4. 放射線科医としての収入(税込み年収)

## 6. 満足度

放射線科医として働くということに対して、とても満足、あるいはやや満足の回答は、68%であった。一方、とても不満足、ないしはやや不満足の回答は7%であった(図5)。

5年前と比べて放射線科の仕事を楽んでいるかという問いに対しては、46%がずっと、あるいは少し楽んでいると回答し、ずっと、あるいは少しつまらないと回答したのは19%であった(図6)。

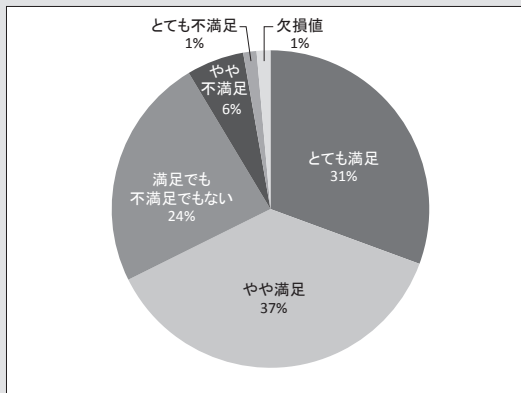


図5. 放射線科医として働くということに対する感情

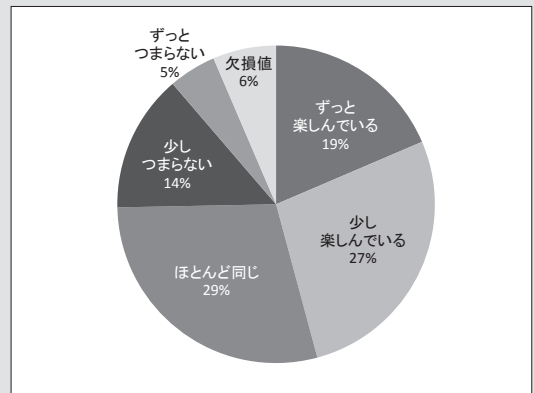


図6. 5年前と比べて、放射線科の仕事を楽んでいるか

## おわりに

JRS/JCRアンケート調査において、約70%が放射線科医の仕事に満足との回答であった。米国のAmerican College of Radiologyが2003年に実施したアンケートでの、93%という数字には及ばないものの、比較的高い満足度であったと考えられる。満足度に影響する因子を検討することにより、日本の放射線科医が働きやすい環境をつくるための改善策を検討していく予定である。

このような貴重な調査データを得ることができたのは、回答者の先生方のご協力の賜物であり、感謝申し上げます。